

美しい風景

1 富士山が見える 1



江戸時代にこの周辺から見た風景である。山口

10 緑道より俯瞰する風景



山口まちづくりセンター北側から緑道で山口中学校の北側の森のなかを歩いてくると福司天満天神社へ曲がるあたりで東側に視界が開けてきて、のどかな風景が広がっている。

5 椿峰由来記 山口(椿峰)



狭山丘陵の一支脈で、昔鎌倉街道が通っていた。元弘3年(1333)に新田義貞が鎌倉攻めにここに布陣した。その時、義貞が誓の代わりに使った椿の枝を地に刺したところ、根つき生育し、また芽に刺したの葉が逆さに出て、「逆椿」とも呼ばれる。大樹となってその根が山の丘陵の目印となっていたという。

2 富士山が見える 2



膳棚遺跡説明板の近くで、西所沢方向から歩き、茶畑のそばから椿峰方向を見ると富士山がよく見える。特に冬の冠雪した富士山がきれいである。

11 ところざわり園



約3万平方メートルの自然林に50種、約45万株のゆかり咲きつる。カラフルな色と豪華な香りに満ちあふれた空間を作っている。

6 山口城跡 山口(南打越)



平安時代末から鎌倉・室町時代にこの一帯を本拠とした武蔵武士山口氏によって築かれた館跡である。東西400メートル、南北200メートルと推定され、石垣はなく、土塁と堀によって囲まれていた。多くの柱跡や礎石、井戸の跡、木製橋などが発掘された。いざ戦となつてその跡が山の丘陵の目印となっていたという。

3 富士山が見える 3



椿峰コミュニティ館前の通りを山口小学校方面に歩くと坂の手前で見えない富士山が見える。

12 狭山湖の堰堤 全体が見える



狭山湖運動場から見た狭山湖堰堤

7 山口民俗資料館 山口(町谷)



水が乏しく、畑作が主である所沢には珍しく、丘陵からの湧き水を利用した水田がこの山口には珍しかった。その当時の生活を伝える民俗資料を集めて、20年になる。また、江戸時代後半から大正時代前半まで副産物として、産物が行われ、「所沢白」というブランドとして知られる。それを現在復活して実演している。当館の開館日は、山口まちづくりセンター(2924-1224)まで問い合わせ下さい。

4 富士山が見える 4



冬の朝、特に風が強いわく、狭山湖堰堤から美しい富士山が見える。

13 東京スカイツリーがみえる



風が強く、晴れた冬の日、狭山湖堰堤よりきれいに見える。

5 岩崎弁財天 桜



弁財天の周りには桜があり、池を囲むように桜が盛り出している。季節には、桜が池に写りこみ風情がある。

6 みつ子桜 (中峯一本桜)



かつて茶畑に生えた桜を、その畑の所有者が手塩に掛けた育てたもので、今は大樹となった。その方の名前由来するといふ。見事な桜の大樹となっている。

1 膳棚遺跡説明板 山口(山口団地)



六ツ家川を見下ろす南向き台地にあり、昭和42年(1967)に山口団地建設に伴い、大規模発掘調査がなされた。縄文時代中期の集落跡で、竪穴式住居が50軒以上代替わりしながら長期間この地に定住していた。土器や石器も数多く出土し、貴重な遺跡である。

7 狭山自然公園 桜



狭山湖堤防下の狭山自然公園には、ソメイヨシノを初めて多数の桜が植えられていて、多摩川と合わせると約2万本になったといふ。すでに老木となつた。今は若木に植え替えられて、近い将来桜の名所としてまた賑わうであろう。

2 子育て地藏 山口(堀之内)



舟形の石地藏で、寛文11年(1671)6月24日と銘文されている。お産で死んだ乞食の菩提を弔って清水家の祖先が地蔵堂を建てたのだといふ。毎年7月24日の前後の土曜日に地蔵祭りが行われていたといふ。

8 菩提樹池



循環型の暮らしをしながら、狭山丘陵の谷地で耕作するために、菩提池を作つて、田圃に流れ込んで昭和頃まで米作を維持していた。平成20年から地玉集、所沢市、地元団体などが力を合わせて未来に伝える活動をしている。

3 来迎寺 板碑 山口(堀之内)



この板碑は、所沢市指定文化財「所沢市では最古の碑である。この碑は、高さ155センチ、幅50センチ、厚さ5センチで、建長8年(1256)2月23日に武蔵七党丹波の加治左衛門尉丹治家康が建てたものである。碑には梵字「キリク」(弥陀)のほか観無量寿経の一部「光明遍照 十方世界念仏衆生 摂取不捨」の文字が刻まれている。

12 山口貯水池説明板 勝楽寺



山口貯水池(狭山湖)は昭和9年(1934)に東京市水道局により建設・完成したアースダム(アースダムは主に土を用い、台形状に形成して建設するダム)である。堤高35m(国内8位)貯水容量20、649千m³(国内10位)のダムで夏秋の水害と水不足を防止し、水質の向上と水質の改善に寄与している。

9 トロの森 1号地



狭山丘陵の豊かな自然環境を守ろうとの活動で、買取りは平成3年(1991)8月で、トロの森1号地として買取りされている。平成30年(2018)3月までには4ヶ所のトロの森が誕生している。多くは雑木林で、循環型の暮らしのあり方を示す風景である。

4 桜淵地蔵堂 山口(町谷)



今から200年前、町谷にかね善という僧侶がおり、その皇子の御影は「今小町」といわれた。見舞をしたが、その子が夜中に泣くので、りんの珠は夜中じゅうあやしていたが、赤子をなしてしまふ、気が狂つてしまふ。その後この辺で赤子の泣き声と珠の老木の葉の中からは守歌が聞こえるという評判がたち、やがてかね善が買取り、主人は寺男となって菩提を弔ったといふ。

13 だいだら法師 (東大和市)



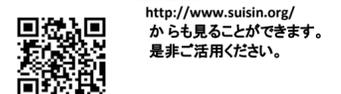
東日本に広く伝えられる伝説上の大巨人である。富士山や伊豆七島を作つたと言われ、多摩川周辺にもその跡は多い。本公園の地に、武蔵村山市の丸山の井戸は足跡とが、湖底に沈んだ内蔵に「ツンドロの井戸」があったといふ。

所沢山口ほほえみウォーキングマップ



『江戸名所図会』より

所沢市山口地区は美しい自然と古い歴史のあるまちです。この山口を地域の方にもっと知っていただき、かつ健康増進のため歩いていただき、このマップを作成しました。場所の選定についてはまちづくりセンターに来場された方に推薦いただきました。このマップは名所マップとしてスマートフォンで上のQRコードから見る事ができます。また山口まちづくり推進協議会のホームページ http://www.suisin.org/ から見る事ができます。是非ご活用ください。



山口まちづくり推進協議会



社 寺

1 冰川の御社 山口(岩崎)



創立・由緒不明

10 峯薬師 山口(椿峰)



草創は分らない。昔、村人は石像を安置し、また一閑道人が来村し、寄付を集め、十二神将を補修し、又十五像を刻み、梵鐘を作つたといふ。時に元禄7年(1694)といふ。その後堂宇も荒廃し、薬師如来も行方不明。今は見る影もない。

19 堀口天満天神社 (天満天神社) 上山口(堀口)



天正年間(1573-92)末年、地頭であった松島氏が家康に、堀口村の鎮守とした。天明年間(1781-88)に清原寺境内に移し、昭和5年(1930)の貯水池建設に伴い、さらに現在の地に移転した。

2 瑞岩寺 山口(岩崎)



創立年紀などなく、寛徳元年(1044)の石碑などが残る。貞治元年(1367)9月、山口城主山口高治が足利氏との戦いに破れ、城を落され、この瑞岩寺で自害し、その遺跡などが残されている。毎年10月に行われる「岩崎(さくら)獅子舞」は大坂冬の陣に参戦した地頭の子佐兵衛氏が京都から伝えて、400年の歴史を持つ。

11 稲荷大明神 山口(南打越)



創立・由緒不明

20 清照寺 上山口(堀口)



星見小太郎入道が結んだ庵堂で、そのころ阿弥陀の像を安置していたが、のちに失せた。その地に文禄年間(1592-96)、地頭久松氏が安楽寺を移し、菩提樹とした。それで星見山と号し、菩提樹寺と号す。今の清照寺となる。星見山無量壽寺、今の清照寺となる。

3 岩崎弁財天 山口(岩崎)



スナノオノミコトの地で、航海安全・技芸の神市井島姫尊を祀る。岩崎地区の惣社として上郷に水神社、中郷に水川社、下郷に水川社があったが、明治39年(1906)の神社合祀により中水川神社に合祀され、のちに現在の地に移された。瑞岩寺(岩崎)の御子舞は、この弁財天に勧で始まる。

12 中水川神社 山口(水川)



延喜5年(905)、醍醐天皇の勅命で遷された古代の「延喜寺」に載る古社といふ。さいたま市の水川神社と奥多摩の奥多摩神社の中央にあるので、中水川神社と称したといふ。山口氏も尊崇し、山口家継が社殿を造営、その後継で焼失し、元禄2年(1689)本殿が造営された。日本武尊が東征の際に勧請したともいふ。

21 龜神社(こうじんしゃ) 上山口(大鐘)



俗にいう亀神様を祀る。かまどじんしゃとも呼ばれる。創立年代など不明。現在の大鐘公民館の位置に拝殿があったといふ。度々の瀬川の洪水により、堤防寄りの谷戸にあったが、昭和4年(1929)に今の位置に定まった。

4 峯八雲神社 山口(岩崎)



通称 天王様 狭山丘陵の北麓長尾端の家にあり、伝えでは、天保年間(1830-43)に清水家の当主がこの地に住み、この社を興し、流行病などを防ぐとして信仰されたといふ。

13 翁樹神社 山口(菩提樹)



空海がこの地に来て密教院にまつられたといふ三尊阿弥陀如来を作つた時、植えた菩提樹からこの地を菩提樹村といひ、その樹の子孫が翁樹神社に大木となって現存している。

22 狭山不動尊 上山口(山内)



天台宗別格本山となつていて、西武グループが昭和50年(1975)当時、プリンスホテルを開業するに際して、芝増上寺をはじめ各地の文化財を集めてこの地に寺を勧請したといふ。元弘3年(1333)に新田義貞が鎌倉幕府、北条氏を倒すの為にここに至り、戦勝を誓った桜も植えられている。

5 佛蔵院 山口(岩崎)



伝えでは、寛亀2年(716)に朝鮮から渡来した王孫一族が旧勝楽寺村(狭山湖湖底に沈んだ村)に寺を建立したことに始まるといふ。のち、弘法大師が薬師如来・龍王権現を祀り、再興。鎌倉幕府の祈願所とも奉祀したが、文永3年(1256)に北条氏の襲撃に遭って焼失をせられたといふ。本尊十一面観音、阿弥陀堂、薬師堂などが残されていたが、昭和6年(1931)に現在地に移転した。今は戦争に供出されて存しないが、延久3年(1071)の銘がある古い梵鐘があったといふ。

14 密蔵院 山口(菩提樹)



元和8年(1622)に住職円清が入家したとの過去帳があるといふ。境内にある阿弥堂の本尊は三尊阿弥陀如来で、空海の作といふ。その時に植えた菩提樹から菩提樹村といひつた。

23 金楽院(山口観音) 上山口(山内)



伝えでは、奈良大仏の造営に力を尽くした行基がこの地に来て勧請した本尊などに始まり、のちに弘法大師が淨土を導いたりし、里人の病を癒したといふ。元弘3年(1333)に新田義貞が鎌倉幕府、北条氏を倒すの為にここに至り、戦勝を誓った桜も植えられている。

石碑等



6 美園上八雲神社 山口(堀之内)



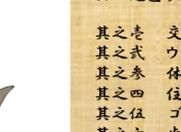
山口城主山口高治の子高忠が城の境を拡張し、ここに美園を造つたので、美園上と稱した。また、城の東門を守護するためにスサノオノミコを祭る八雲神社を建てたといふ。時を経て崩壊したのを徳代名主の小嶋氏が再興したといふ。

15 証智庵(正智庵) 上山口(川辺)



伝えでは、文保年間(1317-18)に証智神師が草創。本尊は十一面観世音、狭山第一番霊場

16 千門(ちとう) 大明神 上山口(川辺)



伝えでは、平将門の乱(平安時代、承平・天慶年間(931-947)で起こつた)での海軍武者がここで逃げ延び、志しい血刀を掲げて立ち往生していたのを里人が手早く取り、その血刀を祀り、その上に祠を建てたといふ。

7 来迎寺 山口(堀之内)



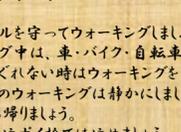
伝えでは元禄元年(1185)建立といふ。のちに奥州藤原秀衡の守り本陣三尊阿弥陀如来が奉祀の求めで鎌倉に遷されたが、雨中で崩壊し、引き返すことになった。そこを今は車返といふ。さらにこの地まで来たところ、再び動かすこの地に置かれたといふ。建長8年(1256)の古い板碑がある。

8 勝光寺 山口(堀之内)



伝えでは、弘安5年(1282)に時頼権北条時宗による創立で、鎌倉建長寺の末寺。また元和8年(1622)に中興の関山禪師により臨濟宗妙心寺派となった。本堂は京都龍安寺の塔頭の方丈を延宝5年(1677)に移築したもの。開元寺に例をない古様の建築様式。山門は元禄9年(1696)の建築で、所沢市内寺院最古の山門で、平林寺、多福寺と同様に横門作りといふ。

17 熊野神社 上山口(新堀)



創立、由緒不明 境内には寛永7年(1654)に勧請された熊野聖山大権理の石碑があり江戸時代末期にはこの地で美園が盛んであったことがうかがえる。

9 海蔵寺 山口(町谷)



山口城主山口高治が足利氏との戦いに敗れ、落城、自刃した。その高治と殉死した家臣の菩提を弔って、文明年間(1469-86)に、高治の孫岩岡民部一兼が、建立したといふ。

山口地区ウォーキングルール

- 其之壹 交通ルールを守ってウォーキングしよう。
其之貳 ウォーキング中は、車・バイク・自転車には十分気を付けよう。
其之参 体調がすぐれない時はウォーキングを中止しよう。
其之四 住宅街でのウォーキングは静かにしよう。
其之伍 歩きは持ち帰ろう。
其之六 歩きたばこやポイ捨てはやめよう。
其之七 枝折や草花の摘み取りはやめよう。
其之八 建造物への落書きは厳禁です。

山口に伝わる昔話 来迎寺の阿弥陀様 ~車返しの弥陀~

その昔、奥州の藤原秀衡は運慶作の弥陀三尊を、大層敬い拝んでおりました。ある時、この弥陀三尊のご利益を聞き付けた時の將軍源頼朝から何としても手に入れたいと言われて、仕方がなく贈ることになりました。弥陀三尊を車に載せ、数十人の従者に護らせて、いざ鎌倉へ向け出発しました。ところが、武蔵国府中(現在の府中市)の近くまで来たところで、突然車が重くなり、全く動かなくなりました。仕方がないので引き返そうと車の向きを変えた途端、あら不思議、車は何事もなかったかのように軽々と動き始めました。丁度その頃、山口堀之内村に小さなお堂があり、そこに旅僧がおりました。ある晩、旅僧の夢に弥陀三尊が現れ、「自分は今、府中車返村におるが、お前のいるお堂に位もうと思つておる。すぐに迎えに来てよ」と言つて飛び去つていきました。翌朝、旅僧は急いで府中に行き、秀衡の従者に夢の話をし、何と弥陀三尊を譲り受けると、堀之内村のお堂に運び入れ、日夜お経をあげ敬いました。それ以来、このお堂は来迎寺と呼ばれるようになり、この弥陀三尊は「車返しの弥陀」と呼ばれ、非常に変態であつたので、参拝に来る人が後を絶たなかつたといふことだ。

作成日 平成31年(2019年)3月31日
令和元年(2019年)10月1日(第2版)
作成 山口まちづくり推進協議会学習文化部
問い合わせ先 所沢市山口まちづくりセンター
所沢市山口6004番地
04-2924-1224
作成協力 山口民俗資料保存会
参考文献 『所沢市史(社寺編)』、『所沢市史(民俗編)』、『所沢の石造物(山口・吾妻)』
上記の資料は所沢市教育委員会発行『江戸名所図会』
その他関連するホームページ、説明板 など



3月 4月 5月
桜の見所
岩崎弁財天・峯八雲神社側
みつこ桜・狭山自然公園

○密蔵院
花祭り
(昔の子どもの楽しみ)
○中氷川神社 春例大祭

6月 7月 8月
森林浴スポット
椿峰由来記〜千門大明神
堀口天満天神社周辺
トトロの森1号地
みつこ桜〜菩提樹池
夏祭り&盆踊り
瑞岩寺・峯八雲神社
美園上八雲神社・中氷川神社
千門大明神・堀口天満天神社
大鐘公民館 他多数

○西武球場前駅周辺
ところざわゆり園
(50種約45万株のゆり)

12月 1月 2月
冬景色の見所
狭山湖周辺

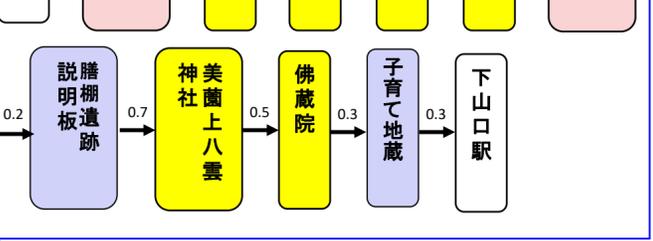
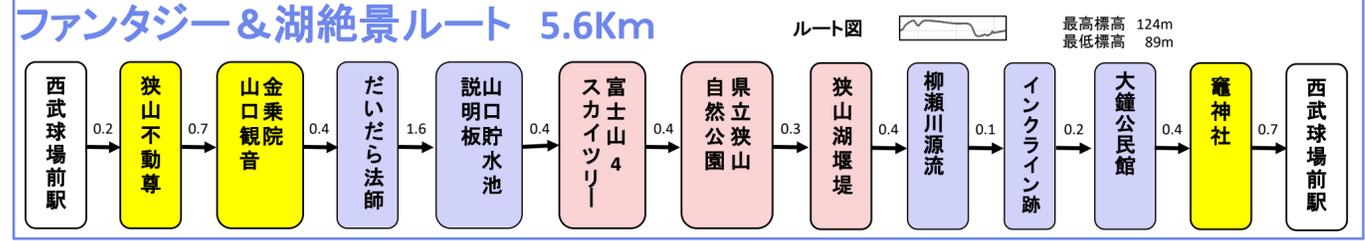
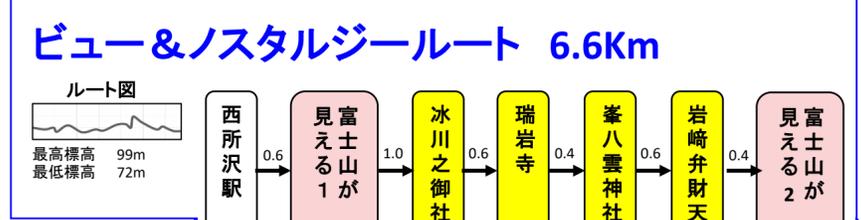
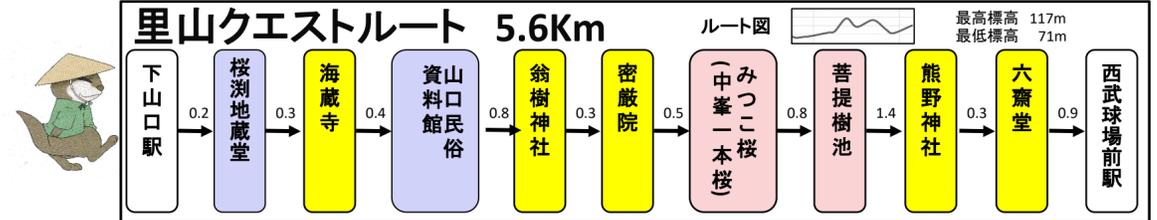
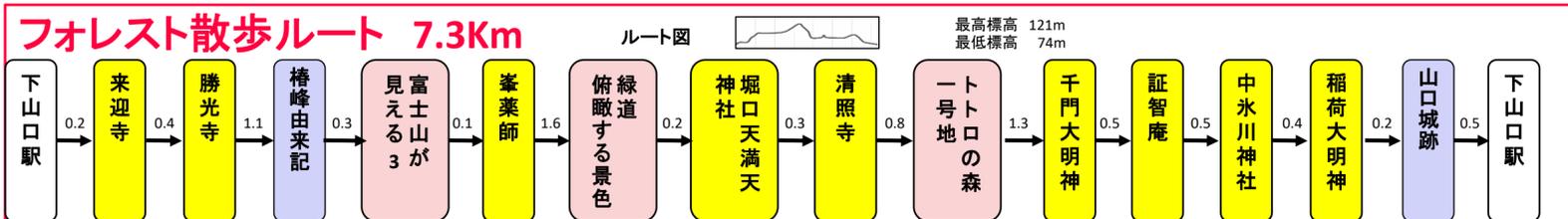
○中氷川神社
子ども焼いも大会
(焼いも作り、ゲーム、歌)
○西武球場前駅周辺
所沢シティアマソン大会

9月 10月 11月
みのりの秋
○菩提樹田んぼ(菩提樹田んぼの会)
稲刈り
(誰でも会員になれます。)
○中氷川神社 秋大祭
○瑞岩寺 岩崎彫獅子舞
(伝承400余年)
○山口まちづくりセンター
山口地区文化祭
(舞台発表・参加型イベント・模擬店多数)
○柳瀬川秋の大規模清掃
(参加者150人以上)
○ふれあいスポーツ大会



山口地区に言い伝えられる地名のいわれ

山口 「山の口」の意
岩崎 狭山丘陵の端「岬」の意
菩提樹 「菩提樹の大本」の意
碓之内 「山口城の外堀の内側」の意
打越 「小手指方面から狭山丘陵を越えて行く場所」の意
氷川 「中氷川神社所在地」の意
町谷 「山口城下の町屋」の意
川辺 「柳瀬川に沿って家屋が並ぶ」の意
堀口 「狭山湖ができる前、二流れが1本に合流し柳瀬川になる場所」の意
大鐘 「塚から大きな鐘が出た」の意
山内 「山口観音があること」の意
新碓 「太田道灌の家臣新碓玄蕃が住んでいた」の意



勝楽寺について
「柳瀬のかわうそ」と「勝楽寺」

<柳瀬のかわうそ>
古文書「山口詣(やまくちもうで)」とは、嘉永2年(1849)江戸末期、作者不詳ペンネーム「柳瀬のかわうそ」により書き残された見聞録です。江戸の頃、郡からほど近い「山口の里」は春ともなれば花が咲き乱れ、神社仏閣が点在する名所であったようです。古文書には今も残る山口の地名や見所がたくさん出てきます。椿峰、峯業師から見た山口の情景「のどかさや 万戸の煙 空に飛ぶ」や「道問えば あちら向きたる 茶摘みかな」など、竹づつに好みの飲み物やととのえ山口周辺を江戸末期に歩いた作者「柳瀬のかわうそ」はどんな人だったのでしょうか。

<湖底のふるさと>
1300年の歴史を秘めた勝楽寺は狭山丘陵の自然と調和静かに迎えてくれます。勝楽寺の草創は、寛永2年(716)現在は狭山湖(山口貯水池)の湖底に沈んだ勝楽寺村に朝鮮半島から渡来した王辰爾(お引ん)一族の人々により阿弥陀如来・歓喜天をまつり勝楽寺聖天院を建立した時に始まり、天喜・治暦(1053~1069)の世には武蔵野一の霊場となり治承・寿永(1177~1183)の時代には鎌倉将軍の祈願所となり七社神社列当に当たり十二院十二坊を敷え、寺社ともに繁栄しました。しかし、文永3年(1266)鎌倉騒動がおこり戦乱の世が近づき、たび重なる悲運にまわれましたが、江戸時代文政2年(1819)には再建されました。当時の伽藍は裏山に七社神社、境内に阿弥陀堂・薬師堂・地蔵堂、そして大坊の池に日限地蔵・歓喜天・弁財天がまつられ往古のなごりをとどめていましたが、明治維新により寺社は分離され七社神社は山口中氷川神社に合祀されました。そして大正・昭和の時代に至っては東京の水源地・山口貯水池(狭山湖)築造のために、寺院は昭和4年(1929)に勝楽寺村を離れ現在地、山口1119番地に伽藍を移築(佛蔵院)として今日に至ります。

